

Good Chemistry for Tomorrow

人、社会、そして地球環境のより良い関係を創るために。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月

株主確定基準日 (1) 定時株主総会 3月31日
(2) 期末配当金 3月31日
(3) 中間配当金 9月30日
その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。

公告の方法 電子公告の方法により行います。
但し、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
◎公告掲載URL
(<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/ir/index.html>)

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
(〒100-8212)
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

**郵便物送付先及び
電話お問合せ先** 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
(〒171-8508)
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

フリーダイヤル 0120-707-696

住所変更、配当金振込指定・変更、
単元未満株式買増・買取請求に必要な各用紙及び
株式の相続手続依頼書のご請求は

**株主名簿管理人の
フリーダイヤル 0120-864-490**
※自動音声で24時間承っております。

開封手順



株式会社三菱ケミカルホールディングス

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
連絡先 〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-707-696 (フリーダイヤル)



株主の皆様へ

第2期 第1四半期のご報告

(平成18年4月1日～平成18年6月30日)

三菱株式会社三菱ケミカルホールディングス

第1四半期業績の概況（連結）

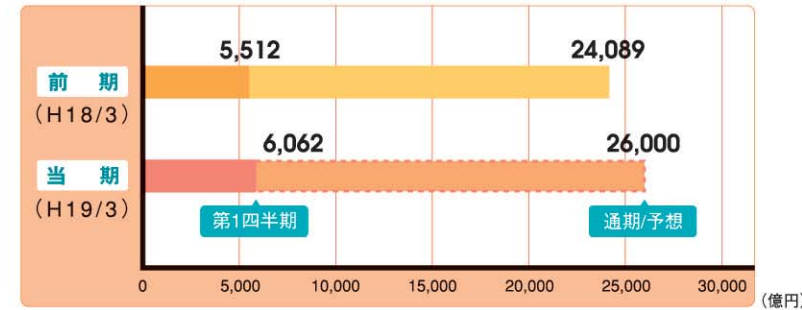
当第1四半期（平成18年4月1日～平成18年6月30日）の日本経済は、米国・中国経済が好調を継続する中で、生産活動は引き続き高水準で推移し、個人消費も増加するなど緩やかに拡大を続けました。

当社グループの事業環境につきましては、国内外の需要は堅調でありましたが、中東情勢の不安定さから原油・ナフサ価格が一段と高騰しており、予断を許さぬ状況にあります。

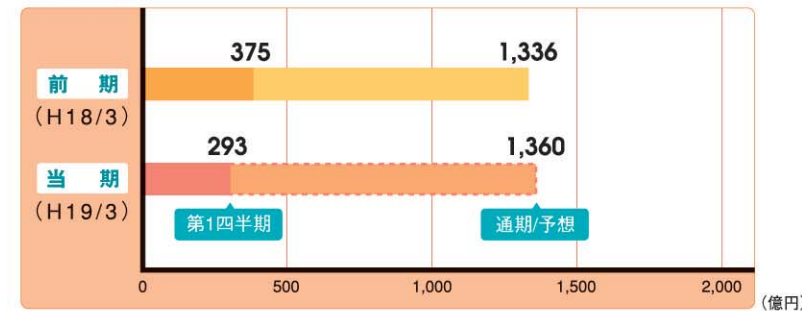
このような状況下、当社グループの当第1四半期の売上高は6,062億円（前年同期比9.9%増）、営業利益は293億円（同21.7%減）、経常利益は348億円（同16.7%減）となり、当期純利益は217億円（同14.7%増）となりました。

当社が平成17年10月に株式移転により設立されたことから、前期（平成18年3月期）の数値は、三菱化学㈱の中間連結決算数値を引き継いだ連結決算数値であります。そのため、前年同期との比較には、同社の前期第1四半期連結決算数値を用いております。

売上高



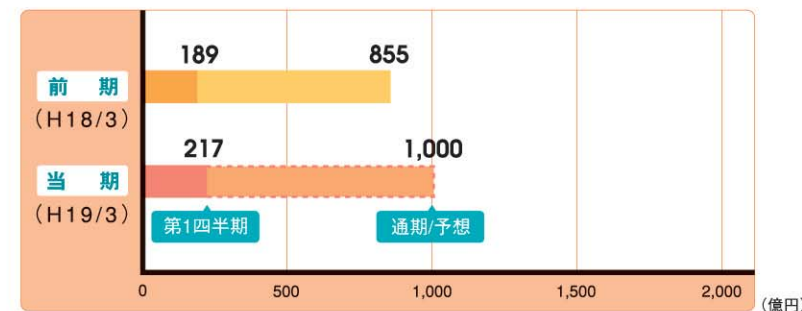
営業利益



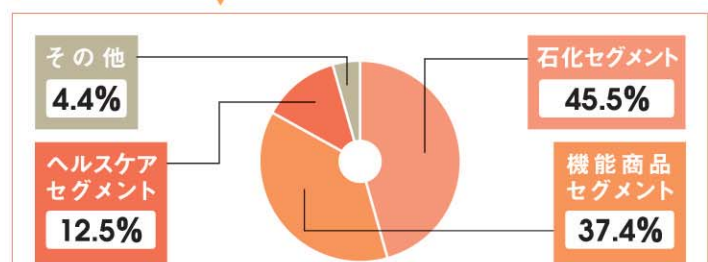
経常利益



当期純利益



セグメント別売上高の構成比



石化セグメント

売上高 2,759億円 営業利益 15億円

石油化学部門の基礎素材であるエチレンの生産量は28万トンと、前年との定期修理規模の差により前年同期を40%上回りました。基礎石化製品、化成品、合成繊維原料、合成樹脂及び機能性ポリマーは、国内外の旺盛な需要に支えられ販売は好調でありましたが、原燃料価格の値上がりと海外市況の影響等により減益となりました。

機能商品セグメント

売上高 2,271億円 営業利益 139億円

機能化学事業のうち、光ディスクは、販売価格は下落したものの販売増により利益は微減に止まりました。OPCドラム、トナー等のプリンタ・コピー機関連材料は、旺盛な需要を背景に増販となりました。食品機能材は、引き続き順調に推移しました。炭素事業は、原料炭在庫の受払差益が減少したこと及びコークス輸出価格の下落により、前年に比べ利益は減少しました。機能材料事業のうち、各種フィルム、複合フィルム及びシート製品は、液晶ディスプレイ用保護フィルム向け等を中心に好調に推移し、樹脂射出成型品等の情報電子材料並びに炭素繊維、アルミナ繊維等の産業資材及び建築材料は、順調に売上げを伸ばしました。

ヘルスケアセグメント

売上高 760億円 営業利益 129億円

医薬品は、抗血小板剤「アンプラグ」や脳保護薬「ラジカット注」の販売数量が増加したものの、薬価基準引下げの影響等もあり、売上高は前年同期を下回りましたが、主力製品の販売増とコストダウンにより利益は増加しました。臨床検査事業及び治験検査事業は、順調に推移しました。

当第1四半期より、当社グループの事業セグメントの名称変更及び一部事業・子会社の所属セグメント変更を行っております。

トピックス

FY2006 1Q

一時会計監査人の選任

当社の会計監査人であった中央青山監査法人（現みずぎ監査法人）が金融庁から本年7月1日から2カ月間の業務停止処分を受け、会計監査人の資格を喪失したことに伴い、当社監査役会において、本年7月3日をもって新日本監査法人を一時会計監査人として選任しました。その後、当社監査役会においては、会計監査の信頼性の維持・向上について引き続き検討を行い、その中で監査継続の重要性の観点から、中央青山監査法人の一時会計監査人としての起用の是非を同監査法人の改革への取組み状況を見極めつつ検討した結果、本年9月1日をもって同監査法人を一時会計監査人として追加選任し、両監査法人による共同監査を受けることとしました。

なお、当社は、一時会計監査人の監査の状況等を踏まえた上で、当社にとってふさわしい会計監査人について引き続き総合的に検討を行ってまいります。

自己株式の取得

当社は、昨年10月に株式移転の方法により、三菱化学(株)と三菱ウェルファーマ(株)を完全子会社とする共同持株会社として設立されました。その結果、両社は合算で当社の発行済株式の約24%を保有することとなりましたが、当社は、グループ事業の提携・再編における活用も視野に入れて、本年9月1日をもって、両社が保有する当社株式のすべてを取得しました。

「国連グローバル・コンパクト」への参加

当社グループは、このたび国連が提唱する「グローバル・コンパクト」に参加しました。

グローバル・コンパクトは、平成11年1月にスイスのダボスで開催された世界経済フォーラムにおける国連のアナン事務総長の提唱がきっかけとなり、平成12年7月に発足しました。経済のグローバル化により世界的規模で起こりうるさまざまな問題を解決するために、企業が一致団結して、地球市民の立場からその責務を果たそうとするものです。

当社グループは、グローバル・コンパクトが掲げる「人権・労働・環境・腐敗防止」に関する10原則を支持し、事業活動を通じて実践するとともに、グループ全体で一層のCSR（企業の社会的責任）推進を図り、国際社会における課題解決のために貢献していきたいと考えています。



本社オフィス移転



イメージ図

当社は、本年10月10日をもって、現在入居している第一田町ビルに隣接の三菱ケミカルホールディングスビルに本社オフィスを移転します。新オフィスの住所は、以下の通りです。
〒108-0014
東京都港区芝四丁目14番1号
(三菱ケミカルホールディングスビル)

ホームページアドレス

当社は、インターネットにホームページを開設し、最新の企業情報を幅広く提供しております。
<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp>